

6月に入りました。今月は さまざまな行事が続くひと月になりますが、保育参加を始め 保育園をピカピカにしよう！では、出来る限り 子ども達の普段の姿を感じて頂けるように、年長組を中心に子ども達ひとりひとりの主体性を楽しく活かせるプログラムを考えています。保育園での わずかなひと時ですが、子ども達と一緒に 思う存分 お楽しみ頂ければ幸いです。それぞれの活動や遊び、ひとりひとりの対応や クラスとしての取り組み等の様子を通して つのぶえの保育理念や方針、私共保育者の 人としての子ども達に対する祈りや想いについて 参加して下さる皆様に ご理解頂ける好い機会となるよう 大切に過したいと願っています。

また、今週末に予定している 同窓会では、卒園した子ども達との懐かしい再会を感謝して 毎年、ドキドキ・ワクワク！ 心躍らせながら 成長した久しぶりの姿を迎える 嬉しい時です。大きくなった現在の姿に感動しつつ、学校での日々、様々な経験や想いを語ってくれる皆の 心の中を聞いていると 社会の荒波にもまれながら、人間関係に悩んだり将来の夢に迷ったり それぞれが それぞれに置かれている場で 精一杯 踏ん張って 懸命に生きていることを感じ こんなに遅くなったのかと 保育園当時の無邪気な笑顔を重ねては 涙が出そうになります。毎年の 子ども達との再会は、自分自身も 生きる姿勢を振り返り 見つめ直す時を与えられる、大変有意義な一日です。今年も 50名近くもの同窓生たちが 保育園に 戻ってきてくれます。出会いと同様、再会もまた “神様の必然” です。心に残る時を分かち合いたいと思っています。

そして、今週の金曜日は『花の日 こどもの日』です。これは、キリスト教の大切な行事で 6月の第2日曜日に 定められています。つるねでは、今年は2日前の 8日に 行います。色とりどりの美しいお花たちと あふれる香りに囲まれて、子ども達の愛らしい笑顔とともに ささげる 花の日の礼拝は、神様から つくられた小さな命の息吹の素晴らしさを 感じられて 心が温まり喜びに満たされる とても嬉しいひと時です。鮮やかで立派に咲き誇る大きな花も 道端に清らかに咲く可憐な野の花も、互いに比べようのない唯一無二の 貴い存在であること、神様によって生かされている 儚い命であることを思わされます。そしてそれは人も同じです。子ども達の純粋な心とその個性の素晴らしさは、一輪一輪のひたむきに咲いている花の姿に 相通するものがありますね。神様は どんなに小さな命も大切に愛しみ 価値あるものとして 喜び 祝福されています。イエス・キリストは 神様のその御心と愛を人々に伝え知らせました。特に、社会で弱い立場にいる人、病に苦しんでいる人、孤独の中にいる人、悲しんでいる人、そして 物言えない小さな存在にこそ 手を差し伸べ、寄り添い、希望と愛を注ぎ続けました。その中に在って、この世の誰よりも 愛され、最も尊重された存在は、幼な子達でした。

『花の日 こどもの日』は、そのキリストの愛に満ちた生き方を忘れず、表し続けていこうと 子どもの健やかな成長を願い 1856年6月の日曜に感謝の礼拝を守ったことが始まりです。その後 花の清らかさと子どもの純粋な心を重ね 共にその貴さを感謝する礼拝となりました。先日の ペンテコステ、また、クリスマスやイースターなど、出来事のお祝いの日とは異なり、聖書の中に記されている出来事を通して、“人としての イエス・キリストの生き方” を想い、その原点である 神様の愛に立ち返る機会を与えられている礼拝なのだと 私は思っています。子ども達の汚れない まっすぐな心、美しい花の命、その存在そのものが 神様の愛なのだと その本質や ほんとうの価値観に気づき 心優しく生きていきたいと改めて思わされています。

“子どもの祝福”と同時に 大人達への”心と向き合うための時”でもあるのかもしれません。保育園という幼い命と生き合う場に於いて、『花の日 こどもの日』こそ 大切な記念日として 子ども達との出会いを感謝し、心安らかな礼拝のひと時を とともに過ごしたいと願っています。世界中の幼な子達の心に 神様の愛と希望と平和が注がれ続けますよう 心からお祈りします。

「見よ。子どもたちは 主の賜物、(詩篇 127:3)」 (石田 記)